

十二日迄に四回の会合を持つに至つた。

統一協議会に於ける藤田、山下一派の主張は、大会を以て全執行委員の總意に依らざるものなれば、之に依つて選出せられた本部員は認めることが出来ない。大会開催を敢行した一派は更迭大会なりと稱呼してゐるものゝ、其後の情勢に於て觀るに、現本部員の力を以てしては東交統一の見透しはついでにないではないか。飽く迄全執行委員の總意に依る大会を開催しなければならぬと固く持して譲らざるに本部会計の引次さへ拒絶して居たのであつた。

協議会を重ねること三回、而も兩者より三々五々の主張出て、何等局面の打開を得ず、遂に七月二十二日の協議会に於て、更に膝を交へたの懇談拆衝機關として統一協議会小委員会設置を決議し、本部派は其の儘云々本特派は其の儘云々海軍部員云々河野長次郎、熊谷利雄、佐伯健、内海實言、大谷、穂積次郎、戸田武七、藤田派は其の儘云々井瀧清行、田中房雄、古明地猛、元島健太郎、清水誠、等を擧げ、七月廿二日、第一回を八月二日、第二回、本委員会を用いて、兩派再会流への妥協案を見出す

べし、且又自派主張の貫徹を計るべく苦慮しつゝあつた。

約九月に亘る変遷を経て、今日に於ては全く分裂の危機から漸解せられ、兩派の東交統一主義を目標しての緩寄りは一致点へ近づいたとも思われる。即ち藤田一派に於ても臨時大会は大眾の總意に依つてなされたものでなく、且幾多研究の余地ある規約の改正を敢行して自動車部の意思を無視せるものせあれば、今單純に大会を認め、白紙状態に還元して本部派に屈從的合流をなすことは出来ないと然し現在の本部が従業員間に或程度の指導的地位を獲得してゐるの事實はこれを認容するものであらうと表明し、此の際即時兩派に依る大会を開催して過去を清算することを以て急務なりと云ひ、七月七日の本部開催の中央委員会に対しては、藤田外七名出席傍聴し、不参加支部の名を以て聲明書を發表した。同聲明は、藤田派の現在包懐する主張の偽らざる表示なれば茲に全文を記して参考に資したい。

聲明書

大会に不参加しを居る各支部は、大会に於て決定したる諸決議を以て、並に大会に依りて更迭したる現本部の諸機關を認めては居らぬ